

～ 秋のダイナミックワールド ～
青の2組(年長児)で展開されている遊び

小びと銀行

空き箱でレジ、紙でお金をつくり始めたことをきっかけに生まれた遊び。扉型や引き出し型の空き箱を見つけてきた子どもたちが「レジみたい!」「お金もつくりたい」と遊びだしました。その頃、クラスでは、いくつかのゲームコーナーがうまれてきていたので「レジやお金をつかって、ここを銀行にしよう」「このお金でゲームのチケットを買ってもらおう」という意見が出てきました。数日後には段ボールで銀行の壁も作りだし、その壁に「小びとを折って貼ろう」「小びとさんのおうちもくっつけよう」と、12月に発表予定のオペレッタ『くつやと小びと』とのイメージが一緒になりさらに盛り上がっていきました。そして、子どもたちはこの銀行を『小びと銀行』と名づけました。最近では、大切なお金をきちんとしまっておくために鍵をつくるという工夫も出てきています。



レインボーバス

遠足で“多摩動物公園”に行ったことから生まれた遊び。遠足で“多摩動物公園”に行った時、ライオンバスが改修中で乗ることができませんでした。帰ってきてから「ライオンバスに乗りたかったなあ」という子どものつぶやきが心に残り、次の日、保育室に大きな段ボールを用意しておきました。すると、それをバスに見立てて、遊び始めました。背の高い子も乗れるようにとドアを大きく切ったり、怪我をしている子(足にギプスをしてる友だちがいた為)や赤組(年少)さん、みんなが乗れるバスにしたいと段ボールを繋げてバスを長くしたりもしていました。このバスに乗ると優しい気持ちになれたらいいよね、とバスの内側には『優しい気持ちになれるマーク』がたくさん描いてあります。バスを実際に動かしてみると、前が見えず壁や人にぶつかったり、タイヤがとれたりと問題発生。開閉式の窓をくり抜いたり、タイヤをガムテープでとれないようにしたりと、日々、改良し続けています。



小びとスーパーバレーボール

リオオリンピックTV観戦や運動会(YGKオリンピック)を経験し、様々なスポーツに興味を持ったことをきっかけに始まった遊び。新聞紙を丸めガムテープでとめたものをボールに見立てバレーボールが始まりました。「バレーボールにはネットがあるから、みんなで作ろう!」という意見が出てきたので、旗台と棒、スズランテープを出しておくと、それを使って格子状にテープを縛りだした子どもたち。「ネットみたいになってきたあ」と周りの子も集まり、バレーボール遊びが大人気。試合をする子、点数を数える子、と役割を決めて遊ぶ姿も見られるようになりました。



小びとゴルフ場

リオオリンピックTV観戦や運動会(YGKオリンピック)を経験し、様々なスポーツに興味を持ったことをきっかけに生まれた遊び。ある子が「ゴルフをやりたい!」と、紙を丸めてガムテープでとめたボールと、ラップやトイレトペーパーの芯をつなげたパターをつかって遊び始めました。ゴルフコースもつくりたい、と何人かの子どもが考えていると、「この道をゴルフのコースにしたらいいいよ」と身近な素材を使って偶然にも道づくりをしていた子どもたちからの提案がありました。こうして、道づくりとゴルフが合体し、遊びはさらに発展。ゴルフのコースは集中しないとクリアできない難関コースと赤組(年少)さんでも楽しく遊べる易しいコースなど数種類のゴルフコースを何日も試行錯誤してつくりました。



小びと国旗かるた

国旗への興味・関心から発展していった遊び。1学期にいろいろな国の方々と交流し、多文化に親しんできた子どもたち。特に国旗に興味を示し、国旗図鑑を見て描いては、それを州ごとに分類していました。夏休み明け、オリンピックを観た子どもたちは、引き続き国旗を描きだし、運動会(YGKオリンピック)に向けて大きな国旗づくりもしました。すると、国旗の色やデザインの意味についても関心を持ち出しました。この国旗を使って新たな遊びが生まれたらと思い、国旗カード(絵合わせ)を出してみると、「自分たちの(描いてきた)国旗を使ってカルタをつくらうよ」という意見が出てきました。読み札は、国旗に詳しい青組(年長)さんにはその国の有名なものを、あまり知らない赤組(年少)さんには国旗の特徴をヒントにし、それぞれ子どもたちが得た知識を出し合い考えました。



小びと迷路

磁石のくっつく特性に気づいたことをきっかけに生まれた遊び。科学的な刺激を子どもたちに与えたいと思い、遊びのコーナーに磁石を置きました。すると、磁石同士をくっつけたり、くっつくものを探したりしながら遊び始めました。ある子が「みてみて」と磁石と磁石の間に段ボールを挟んでもくっつくこと、片方の磁石を動かすともう一つの磁石も同じように動くことを発見しました。「すごい!」「やってみよう!」と子どもたちは大興奮。その後、段ボールに迷路を描き、自分たちが発見した性質を使って迷路の道で磁石を動かす遊びが始まりました。小さな磁石だったので、「小びとさんが迷路で遊んでいるみたい」とその磁石の上に、紙で小びとの絵を描いたものをつけ出した子どもたち。「迷路は難易度が違うものをつくらうよ」とレベル別に製作中です。

